

復興支援の役割とその在り方について

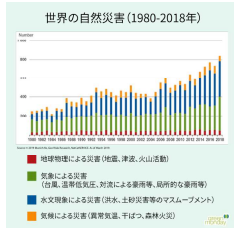
～ 高校生の私達にできること～

熊本県立東稜高等学校

動機

現在、日本のみならず世界中で多くの自然災害が発生している。

熊本地震の被災経験から実際に災害が起ってから重要となるのは被災者や被災地への復興支援だと感じた。



仮説

(被災者の生活再建) (経済再建)

復興支援を2つの視点から読み解くことでどのような支援が重要なのかを考える

検証

熊本(熊本地震)

日本(東日本大震災)

世界(ネパール地震)

災害が起きた地域の特徴と実際に行われた復興支援策を比較しその役割と在り方を探る。

熊本

2016年4月16日 熊本地震本震



(被災者の生活再建)・・・ 仮設住宅の設置・食料支援・避難所の設置
ボランティア活動(瓦礫の撤去作業・炊き出しなど)

(経済再建)・・・ 熊本市民病院の再生・熊本城の復旧

日本

2011年3月11日 東日本大震災



(被災者の生活再建)・・・ 仮設住宅の設置

就労支援(仮設店舗の貸出・被災者の雇用)

(経済再建)・・・ 道路や鉄道の開通・企業の新規立地、増設
名産物を使った事業運営

世界

2019年4月25日 ネパール地震



(被災者の生活再建)・・・ 住宅、学校の再建・トイレなどの水道設備の再建

(経済再建)・・・ 農業や畜産業の技術指導・防災教育
→日赤やJICA(国際協力機構)の取り組み

比較結果・役割

(被災者の生活再建)

・住宅の再建、食料支援
→衣食住の十分な確保

・就労支援
→被災後の暮らしの安定

(経済再建)

・地域の施設の再建
→経済循環の構築

・特産物の利用、観光名所の復旧
→観光面での地域の活性化
訪問客の増加、知名度の向上

復興支援において大切なこと

《住まいの確保》

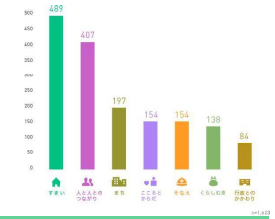
《人と人とのつながり》

住まいを失う

↓
避難所や仮設住宅に移り住む

↓
その度人間関係が失われ

再構築しなければならない



結論

《住まいの確保》《人と人とのつながり》を軸に復興支援を進める

+

《被災者の生活再建》《経済再建》の双方の再建の促進

↓

より迅速で有効な復興支援

私達にできること

・ボランティア活動での瓦礫の撤去、引っ越しの手伝い、募金や寄付

→《住まいの確保》《被災者の生活再建》

・小学生などの子供の遊び相手、話し相手、被災者の方々との交流活動

→《人と人とのつながり》

・SNSを使って若い世代への被災地の情報の発信

→特産物や観光名所などの魅力を伝える→《経済再建》

「助けられる側」から「助ける側」へ

被災地の復興状況を取材し自分たちの視点から動画、記事にする

熊本県の具体的な取り組み

◎～ONE PIECE 熊本復興プロジェクト～

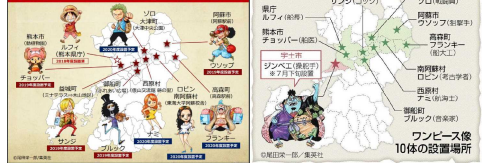
アニメツーリズム

大ヒット漫画「ONE PIECE」作者の尾田栄一郎さんが熊本市出身という縁で、地震からの観光復興事業として、このプロジェクトを立ち上げた。

県内各地に、人気キャラクターの像10体を設置した。



「麦わらの一味」の仲間たちの像の設置場所



ワンピースをきっかけに熊本の魅力を知ってもらい、集客と復興につながる
また、震災を知ってもらえるきっかけにもなる

◎～熊本地震 震災ミュージアム「KIOKU」～

地震の記憶や経験、教訓を確実に後世に伝承し、今後いつどこで起こるかわからない大規模地震災害に備えるため、県内に点在する震災遺構等を活用した回顧形式のフィールドミュージアム「熊本地震 記憶の回廊」を整備して、その中核拠点として、南阿蘇村の旧東海大学阿蘇キャンパス内に新たに体験・展示施設が完成した。

この取組を通して、国内外からの交流人口の拡大を図り、被災地域、ひいては熊本県の更なる発展につなげる。



・主な展示物



(阿蘇大橋の案内板) (被災した自動車) (グラマンセの天井から落下した照明)